

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 原油価格の下落でインフレ圧力が小幅緩和 (05年10月輸入物価) 05年11月15日(火)

~ 製品物価は引き続き落ち着いた動き ~

(No. UI - 143)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

輸出入物価 (U.S. Import and Export Price Indexes)

	輸出物価	輸入物価					自動車	消費財	実効ドル レート
		除石油	工業原料	石油	資本財	自動車			
04/10	+0.6	+1.6	0.1	+5.0	+11.1	0.2	+0.3	+0.1	1.4
04/11	+0.3	0.3	+0.9	1.3	6.0	+0.1	+0.1	+0.2	2.6
04/12	+0.1	1.4	+0.4	5.1	11.4	+0.3	+0.1	+0.3	1.1
05/01	+0.8	+0.6	+0.3	+1.2	+2.2	+0.3	+0.0	+0.6	+0.6
05/02	+0.1	+0.9	+0.1	+2.2	+5.1	0.1	+0.0	+0.5	+0.2
05/03	+0.7	+2.2	+0.3	+7.0	+13.4	0.1	+0.0	0.2	0.6
05/04	+0.5	+0.9	+0.4	+2.8	+3.6	+0.2	+0.1	0.1	+0.9
05/05	0.2	0.8	0.2	2.7	4.4	0.1	+0.0	+0.1	+0.5
05/06	+0.0	+1.2	0.2	+4.1	+8.9	0.1	+0.1	+0.0	+1.1
05/07	+0.1	+1.2	0.2	+4.3	+7.7	0.7	+0.0	0.2	+0.5
05/08	0.1	+1.4	+0.1	+4.2	+7.5	0.1	+0.1	0.2	1.3
05/09	+0.8	+2.3	+1.0	+6.4	+8.0	+0.0	+0.1	+0.3	0.1
05/10	+0.6	0.3	+0.8	0.7	4.4	0.3	+0.0	0.1	+0.7

(出所) 労働省 (Department of Labor)

(注) 未季調、前月比、%。実効レートはFRB算出ベース。

*1:Automotive Vehicles, Parts & Engines

*2:Consumer Goods, excluding Automotives

輸入物価(除く石油)は前月比+0.8%

05年10月の輸入物価(最終財)は、石油・同製品が前月比 4.4%下落したため同0.3%(前年同月比+8.1%)と減少した。原油価格が1バレル=62.25ドル台に下落し、ドル実効レートが上昇したことで、輸入物価は低下した。一方、輸出物価は同+0.6%と2ヵ月連続の上昇となった。

変動の大きい石油を除いた輸入物価(最終財)は、天然ガスが同+19.6%と2ヵ月連続で急騰したため前月比+0.8%(前年同月比+3.7%)と2ヵ月連続で高い伸びとなった。しかし、最終製品では、資本財が同0.3%、自動車が同0.0%、消費財が同0.1%と安定している。消費財(除く自動車)は、9月に3ヵ月ぶりに上昇したものの、衣服、野菜、薬、バッグ、TV等の下落によって再びマイナスに転じた。資本財は、医療機器、一般機械、コンピューター、電気機械・設備、通信機器の下落によって同0.3%と下落傾向が持続している。自動車の輸入価格は米国内での競争激化を背景に同+0.0%と低い伸びにとどまっている。

トレンドを示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも石油が+109.9%と高い伸びが持続したため、輸入物価は+17.7%とプラス幅が拡大した。しかしながら、変動の大きい石油を除いた輸入物価(最終財)は+3.3%と低い伸びにとどまっており、足下でエネルギー価格とそれ以外の製品価格動向には乖離が生じている。

地域別の輸入物価は、カナダ、中国が上昇した一方、その他地域が下落した

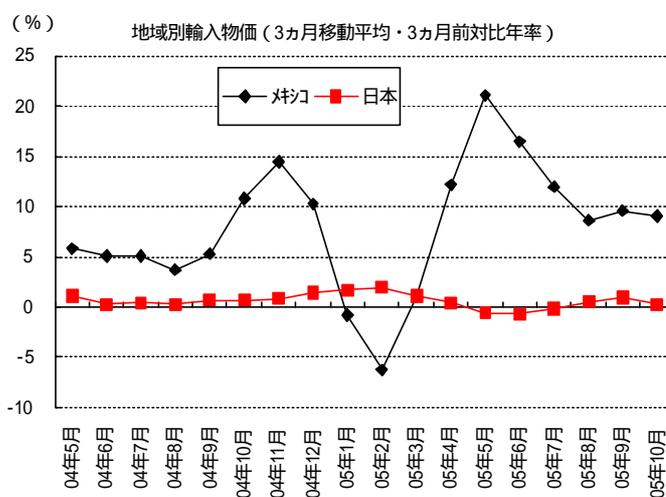
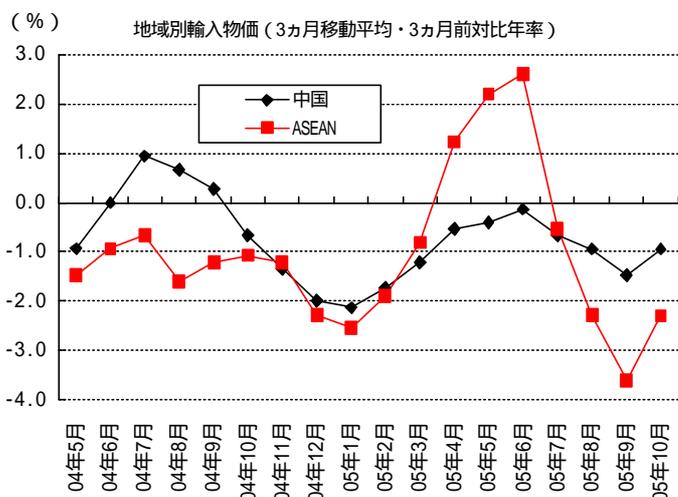
地域別の輸入物価をみると、カナダ、中国以外の地域からの輸入物価は下落した。カナダが前月比+3.6%(前年同月比+15.5%)、通貨元が対ドルで緩やかに切り上がっている中国が同+0.1%(同0.9%)と上昇した。一方、メキシコが同0.5%(同+5.4%)、ラテンアメリカが同0.3%(同+12.6%)、EUが同0.3%(同+4.2%)と下落した。さらに、アジアからの輸入物価をみると、ASEANが同0.4%(同1.1%)、NIE

Sが同 0.3% (同 1.6%)、日本が同 0.1% (同 +0.4%) とハイテク関連製品の輸入が多いアジアからの輸入物価は下落基調が持続している。

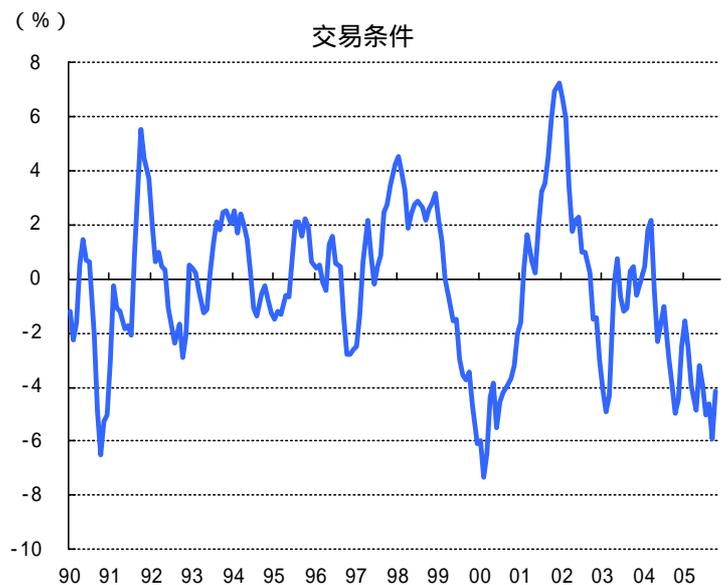
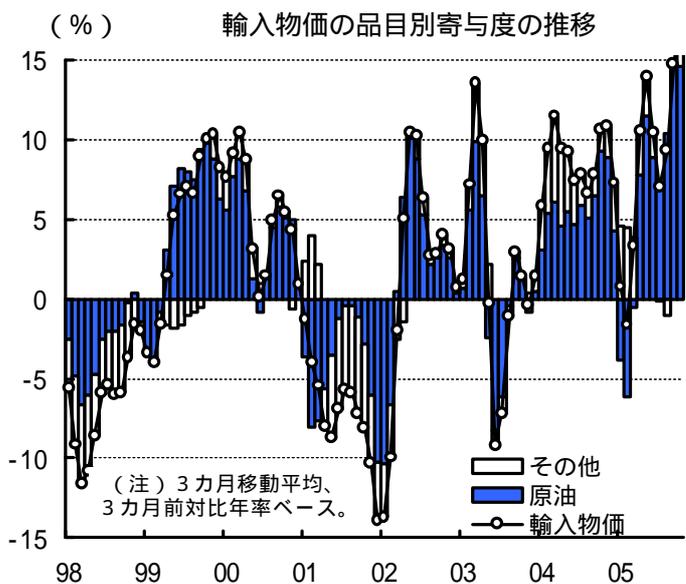
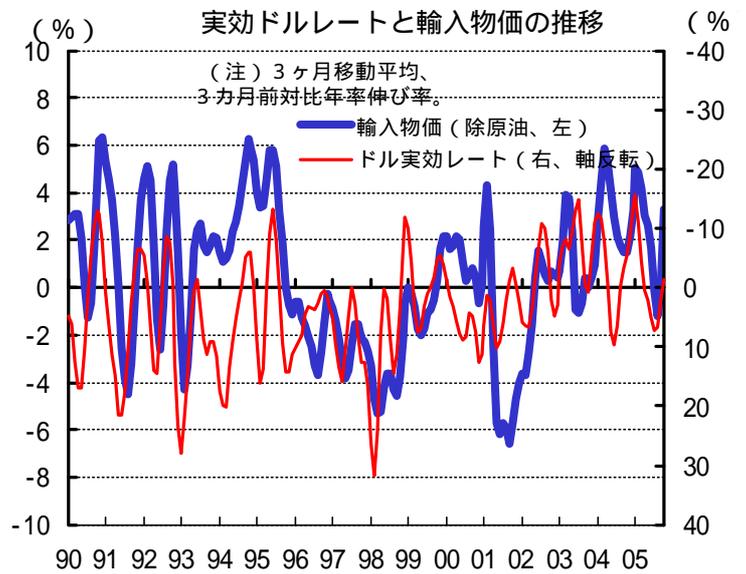
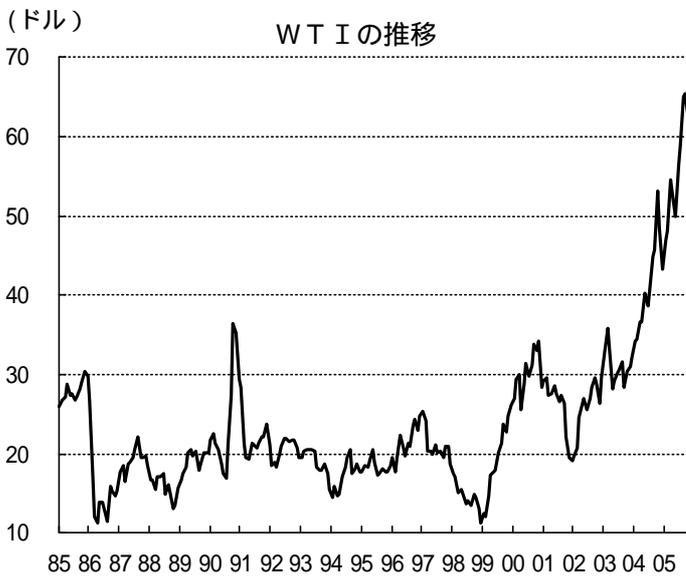
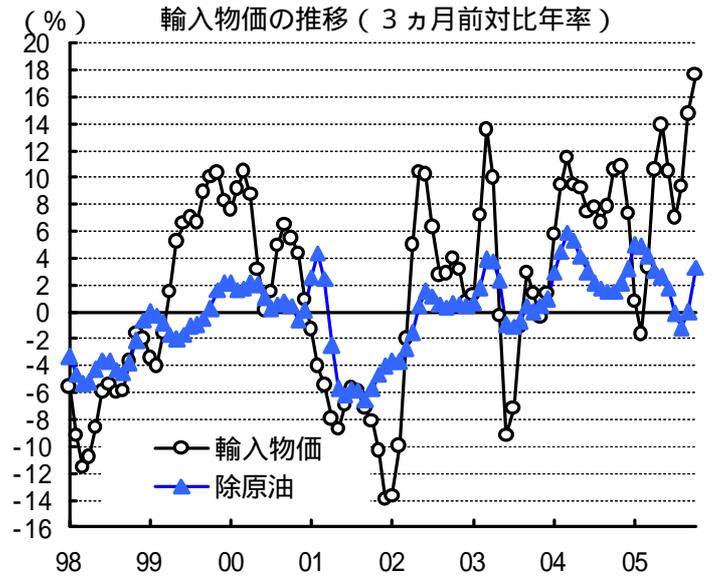
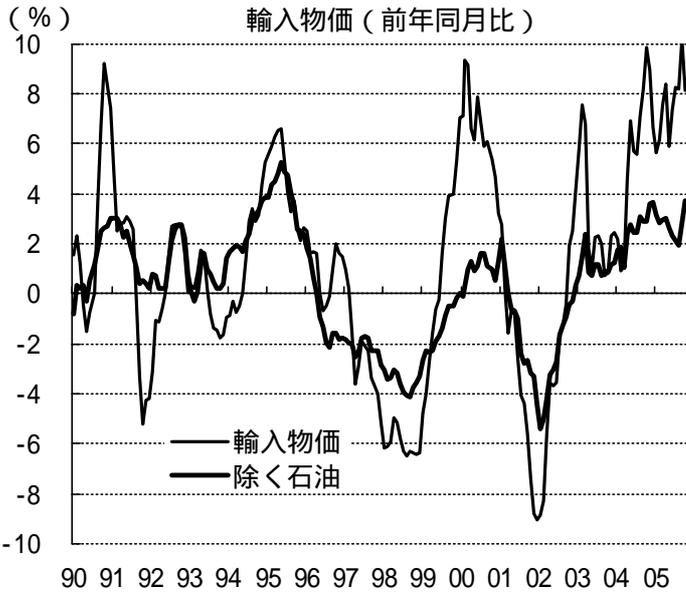
交易条件 (輸出物価 / 輸入物価) は、輸出物価が前年同月比 +3.6% とプラス幅が小幅縮小したものの、輸入物価が同 +8.1% と鈍化したためマイナス幅が縮小しており、マクロでみた米国の対外収益性は改善した。

今後も、製品の輸入物価上昇圧力は限定的なものに

今後の輸入物価を取巻く環境については、エネルギー価格がピークアウトしていること、金利差拡大によってドル実効レートの上昇が見込まれることから、輸入物価の上昇圧力は緩やかに緩和していくとみられる。加えて、製品価格の上昇は世界的な価格競争の強まりを背景に限定的なものにとどまると予想されることから、エネルギー価格を除くコアの輸入物価は落ち着いた動きが続く公算が大きい。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。